

情報のプロはこう読む！新聞の正しい読み方(第12回)

芸能ニュースは「扱い」に注目

2019.06.20

次に、記事の「形式」による分類を覚えておきましょう。

記事の形式による分類

――コラム(囲み、小囲み)、雑報スタイル、一問一答(Q&A)



正方形や長方形の枠で囲まれた記事を「コラム」と呼びます。新聞では、このうち比較的大きなものを「囲み」、小さいものを「小囲み(こがこみ)」と呼んで区別しています。

コラムは単純な事実報道(ストレートニュース)ではなく、「読み物」であることを示しています。例えばニュースにまつわるこぼれ話や、ニュースの背景を、ルポルタージュ(現場の描写)を交えて掘り下げる企画記事などでよく使われます。

このため、コラムにはニュースと異なり「見出しによる格付け」が適用されません。必ず見出しは付いていますが、それがヨコ見出しであろうが、3段であろうが、格付けとしての意味は持たないのです。

ストレートニュースを小囲みにすることもないわけではありません。ただ、これも「ちょっと面白い話」である場合に使われる手法です。長々と解説を付けて大きな見出しを立てるほどのニュースではないものの、話題性があるので枠で囲むことで目立たせるわけです。

一般紙の場合、芸能ニュースはよく小囲みで扱われます。国民的な話題になる大ニュースであっても、社会的な重要性があるかどうかは別なので扱いが難しいのです。最近では1月27日に、人気アイドルグループ「嵐」が2020年末をもって解散すると発表しました。翌日の朝刊(東京版)で、読売や朝日はこれを1面で報じています。ただ、「段モノ」つまりストレートニュースで報じるのはちゅうちよがあったのか、記者会見の写真に短い文章を付ける「絵解きモノ」などと呼ばれる形にしています。枠で明確に囲ってはいないものの、これも小囲みの一種といえます。日経は社会面の小囲みにしていました。

一方、2月にタレントの堀ちえみさんが舌がんで手術を受けると発表した際、主要紙は小囲みではなくベタ記事で報じています。扱いは小さいですが、ストレートニュースとして報じたわけです。これは「がんととの戦い」を報じることに社会的な意義があるという判断が働いているからだと考えられます。

なお、ストレートニュースを報じる段モノやベタなど、囲みではない記事は「雑報スタイル」などと称されます。

囲み記事が分割して掲載されることも… 続きを読む